

アジアからの情報発信

(Position Statements)

程 京 徳

九州大学大学院システム情報科学研究科

1. アジアから何の情報発信するか？

情報の発信は、文化の発信でもある。世界の他の地域の国々や人々はアジアの国々や人々と交流しようとする、まずアジアの文化を理解することから始まる筈である。アジアからの情報発信は、何時も主にアジアの独特な文化の発信であろう。また、アジア地域から情報発信が、その内容はアジアの立場や実情などを反映したものこそ、世界に注目される。

20世紀の後半、アジアにおける経済や社会の発展が非常に著しい。世界の歴史から見れば、経済の継続的な発展は必ず文化の繁栄をもたらす。もし21世紀は、単に経済の面だけから見てアジアの世紀ではなく、文化、政治、科学、技術などの面から見てアジアの世紀であれば、21世紀においてアジアからの情報発信は、アジア文化をはじめ経済、政治、科学、技術など全ての面から世界に注目されるであろう。

アジアにはイギリスの“Nature”、アメリカの“Science”に匹敵する高水準科学雑誌が現在まだない。アジアでも“Nature”と“Science”に匹敵する高水準科学雑誌を創刊すれば、それはアジアから世界への重要な情報発信源になるに違いない。全日本中国人博士協会（日本の大学及び国立または企業の研究機関で勤めている中国人博士達により結成した学術組織）は、現在、このような雑誌をまず電子版から創刊する可能性について模索している。

2. アジアから如何に情報発信するか？

情報の発信は、量よりむしろ質のほうがもっと重要である。情報は参照されてはじめてその利用価値が認められる。参照されない情報は幾ら発信してもその利用価値がない。アジアから発信する情報が世界の他の国々の人々によって参照されるためには、我々はまず発信する情報の質の向上の面で工夫しなければならない。

情報発信の質と量は、様々な現象やデータなどから新しい見解、知識をまとめて把握し、更にそれらを活用することができる高級人材の質と量によって決められる。21世紀において、アジアから世界へ発信するために、アジア諸国はまず自国の高級人材を精一杯多く育成すると共に、欧米をはじめとする世界の他の国々の高級人材もできるだけ多く獲得しなければならない。21世紀は、情報化社会における情報・知識資源を把握し活用する高級人材の獲得を世界的に競争する時代であろう。

中国では「十年樹木、百年樹人」という諺がある。人材の育成は短期間でできないので、長い計画で行わなければならない。更に、アジアから世界へ発信する高級人材を育成するためには、アジアの立場に立ちながら世界を視野に入れた教育方針と制度を確立しなければならない。特に大学院の教育では、学生に問題を解決する系統的な方法を教え、学生の問題解決能力を育つことが勿論重要であるが、問題の発見、認識、定義および提示に関して学生の能力を育つほうが情報発信にとってもっと大切である。学术界では、重要でしかも斬新な研究分野や研究方向の開拓は、間違いがなく世界への重要な情報発信源になる。

しかし、それは、既に提示された問題をうまく解決する能力よりむしろ問題の発見、認識、定義および提示の高い洞察力を要求する。産業界でも、新産業の創出や新製品の開発は、間違いがなく世界への重要な情報発信源になるが、それも、恐らく、技術力よりむしろ発想や発案や企画などの高い能力を要求するであろう。

どのような人材を育成するのは、教育方針と制度の他に、人材の評価制度によって決められる。産業界では、生産量だけでなく売り上げか利益によって企業や個人を評価する。学術界では、論文の数だけでなく論文の参照される範囲か回数によって研究機関や研究者を評価すれば、情報発信の観点から見て、発信する人材の育成にとって有利である。学術論文は重要な情報であるので他の情報と同じように参照されてはじめてその価値が認められる。参照されない論文は幾ら書いても価値がないであろう。論文を公表するために論文を書くことではなく、科学技術の発展に貢献するためにまず研究を行いそして論文を書いて公表することを、発信する人材の育成において強調すべきである。

現在でも、情報発信における言語の問題はアジアの国々と人々にとって厄介な問題である。計算機、ネットワーク、衛星通信などの技術の進歩に伴い、電子メディアを用いて情報を即時に発信し受信する双方向性のある様々な情報交換手段は実用化され普及されるであろう。その時、情報発信における言語の問題はアジアにとって更に大きな問題になるかもしれない。現在、英語はインターネット上の共通語になっているが、これは、単に英語は情報交換にとって便利な道具であることを意味しているにすぎない。非英語文化圏の国々は、インターネット上の英語支配を打破し自国の文化を英語文化の圧迫から解放するために、まず英語の便利さより遥かに便利な道具を自国民に提供しなければならない。この意味で、音声認識・入力・編集や自動翻訳などの実用技術の開発は非英語文化圏のどの国にとっても火急の課題である。一方、世界における科学技術の発展の歴史の必然的な結果として、現在、全世界における科学技術文献の大半が英語で記述されていることも事実である。この状況が続く限り、科学技術の分野で英語の支配地位は変わらない。しかし、自動翻訳技術の進歩に伴って、英語は「共通語」から段々「共通中間語」に変わっていくであろう。

3. アジアから情報を発信するために、アジア諸国は今後どのような協力関係を構築すべきか？

競争が協調にあり、協調が競争にある。「ゲーム」の規則に関する共通認識と約束を大切にしなければならない。当方の立場を強調しながら相手の立場も考慮し、当方の意見を陳述しながら相手の意見も尊重すべきである。お互いに譲歩し妥協してはじめて、双方とも利益を得られる互恵的な共存関係が生まれる。

一言でアジアと言っても、国により人により様々な違いがある。世界におけるアジアという立場に立ってお互いに理解を深めるのは、相互協力体制の確立のための最も重要な必要条件である。理解を深めるために、アジア諸国間の人材の往来と文化の交流は不可欠である。特に人材の往来は、アジア各地に新鮮な活力を注入し、文化の交流を促進するに違いない。全日本中国人博士協会は、日中両国間の民間レベルの様々な形による学術交流と人材往来の橋渡しの役目を果たすために努力し事業を展開している。

謝辞 徳島大学工学部知能情報工学科金群助教授（全日本中国人博士協会事務局長）から本稿に対する助言を頂きました。ここに記して感謝の意を表します。